

風水害に備える

風水害は地震とは違い、気象情報の分析により、災害の危険性のある程度予測することが可能であり、対策を立てる余裕があるので、私たちの心構え一つで被害を軽減することができます。

日頃から雨や風に対する万全の対策を講じておきましょう。



大雨に
備えて

日頃から、家の周囲の安全対策を行いましょう

日頃から家の周囲の点検や、必要な箇所の修理、補強をして雨や風に対する万全の対策を講じておきましょう。

一戸建ての安全対策ポイント

●屋根

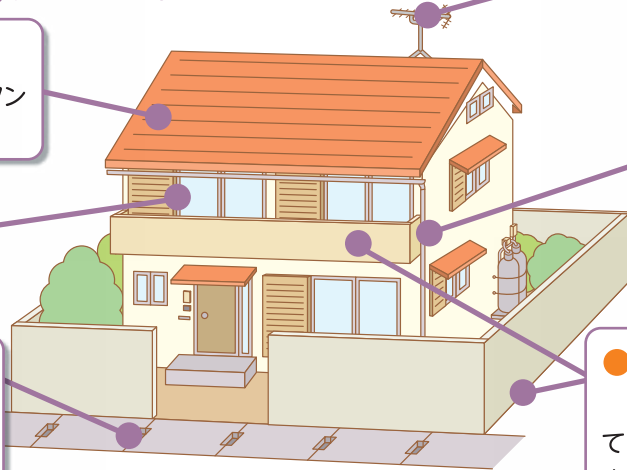
瓦のひび、割れ、ずれ、はがれ、トタンのめくれ、はがれがないかを確認。

●雨戸や窓ガラス

がたつきやゆれみ、ひび割れなどがないかを確認。

●側溝

側溝、グレーチングに落ち葉などがつまっていたら取り除き、雨水の排水をよくしておく。



●アンテナ

アンテナが不安定になっていないか確認。

●雨どい

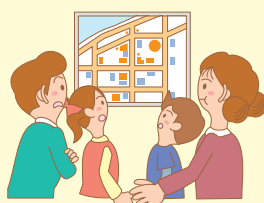
継ぎ目のはずれがないか確認。また、落ち葉などでつまらせないように掃除しておく。

●家の周りやベランダ

家の周りやベランダに置いてある、風で飛ばされそうな小物を片付けておく。

「浸水想定区域」と「土砂災害警戒区域」を知っておく

適切な避難ができるよう、市内を流れている河川が大雨によって氾濫したと仮定した場合に予測される「浸水想定区域」や、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）によって被害を受ける恐れのある「土砂災害警戒区域」を知っておきましょう。詳しくは15ページからの防災マップをご確認ください。



チェックポイント 命を守るために知っておこう「特別警報」

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。

気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を発表して警戒を呼びかけていました。これに加え、今後は、この警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

■特別警報の発表基準

大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪	数十年に一度の規模が予想される場合
津波	高い所で3メートルを超える津波が予想される場合(14ページ参照)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

台風・豪雨
が近づいて
きたら

気象情報の収集や大雨に備えた準備をしましょう

雨が降り出したら、テレビやラジオ、インターネットなどにより、気象情報や河川情報などの収集を心がけ、いつでも避難できるよう準備をしておきましょう。

気象・河川・防災の情報

気象庁 http://www.jma.go.jp/jma/index.html 携帯サイト(QRコード)	神奈川県(防災・災害情報) http://www.pref.kanagawa.jp/sys/bousai/portal/index.html 携帯サイト(QRコード)
国土交通省(防災情報提供センター) http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/ 携帯サイト(QRコード)	座間市 http://www.city.zama.kanagawa.jp(緊急・防災情報) 携帯サイト(QRコード)
ポテカネット(座間市のリアルタイム気象観測) ※令和5年3月末終了	

大雨に備えた準備

大雨に備えた準備を行い、いつでも避難できるようにしておきましょう。



ベランダの植木鉢など飛ばされやすいものは室内へ入れておく。



非常用持出袋を身近な所に置いて、いつでも避難できるようにしておく。



停電に備えてローソクや懐中電灯の用意をしておく。



浸水の恐れがあるときは、家財道具などを2階などの高い所へ移動させる。

避難の情報

災害が発生した場合や発生するおそれがある場合は、防災行政無線や広報車などを通じて、避難に関する情報が発令されます。詳しくは20ページをご確認ください。

危険を
感じたり
避難指示が
あったら

すぐに避難しましょう

避難するときのポイント

動きやすい安全な服装で



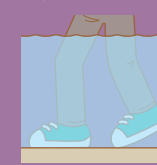
ヘルメットで頭を保護し、靴はひもでしめられる運動靴にする。裸足や長靴は厳禁。

足元に注意



冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールなど危険。長い棒などを杖にして歩く。

深さに注意



歩行可能な水深は約50cm。危険と判断した場合は無理せず高所で救助を待つ。

避難行動要支援者に配慮



高齢者や身体の不自由な人は背負うなどして一緒に避難する。